

釜ヶ崎講座ニュース No. 45

2014年12月10日

釜ヶ崎講座

大阪港郵便局私書箱40号

大阪市西成区萩之茶屋1-9-7

釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

Mail kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

<http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

<http://blogs.yahoo.co.jp/kamagasakikouza>

郵便振替 00940-1-132778 「釜ヶ崎講座」

会員、読者の皆さん 大変ご無沙汰いたしております。釜ヶ崎講座への日頃からのご賛同、ご協力へ厚く感謝申し上げます。12月に入りまして急激に寒さがましました。皆さま、お体、ご自愛ください。講座ニュースNo. 45をお届けします。

1. 第45回越冬闘争への参加ならびに

「恒例釜ヶ崎ツアー」への参加をお願いします。

「仲間内の団結で一人の餓死、凍死者をだすな！今こそ、安心して働き生活できる釜ヶ崎をつくろう！」を本年もスローガンにかかげ、第45回越冬闘争が12月21日の「越冬支援連帯集会」を皮切りとして、とりまれます。釜ヶ崎講座は以下2点の取り組みをいたします。

① 「釜講座・越冬1日行動デー」

12月30日(火)pm6:30分 釜ヶ崎日雇労働組合事務所集合

釜ヶ崎講座として夜間の越冬行動に参加、人民パトロール(pm8:00~9:45), 医療パトロール(pm9:45~11:30頃)を仲間とともにいき越冬行動の実状と問題点を学んでいきます。

② 「新春恒例 越冬釜ツアー」

2015年1月3日(土)pm1:00釜ヶ崎日雇労働組合事務所まえ集合。

(pm4:00過ぎ終了予定)

今回も もちろん水野阿修羅さんに御願ひして釜ヶ崎界限の街を案内していただきます。これまでも歩きながら釜ヶ崎の労働、医療、福祉、文化等を掘り起こし学んできました。水野さんの多彩なトークに今回も期待大です。

釜講座二つの取り組みへのご参加、よろしくお願ひします！

それでは以下、この間の釜ヶ崎講座の取り組みの簡単な報告です。

2・ 7月26日 「第21回講座 講演のつどい」開催される

大阪市大大学院教授 福原宏幸さん講師に招いて

7月26日、「釜ヶ崎講座第21回講演のつどい」がエルおおさかにおいて開催されました。これまで講座はドイツ、韓国など各国のホームレスを中心とした生活困窮問題を取り上げつつ、日本の実状と合わせながら学習してきました。今回は1990年代よりフランスにおけるホームレス事情に精通する福原先生が快く講師を引き受けてくださり、「フランスの社会的包摂政策—生活困窮者支援と社会連帯経済」のテーマでお話していただきました。福原先生はフランス社会の実状を自らの現地行動の経験をふまえて概括され、フランスの「困っている人」を社会が救済するという考え方は日本のそれと比して、歴史、定着という点からはかっても、相当の開きがある、と述べフランスにおける救済・保護政策の優位性を具体例をあげ説明しました。そして日本における農業衰退や地方経済・自治の後退の現実をも私達に考えさせてもらった講演となり有意義な第21回のつどいとなりました。福原先生、当日ご参加のみなさん、有難うございました。

3・ 「第43回釜ヶ崎夏祭り」が成功裡におこなわれる

釜講座は「特掃ツアー」、「釜ツアー」を挙行

今年も8月13日(12日は前夜祭)～15日にかけて第43回の釜ヶ崎夏祭りが

実行委員会に結集する団体・個人など仲間の連帯、努力で開催、成功しました。国内では沖縄・辺野古新基地建設の強行と京都府Xバンドレーダー建設着工強行の暴挙、そして海外ではイスラエルがパレスチナ・ガザ地区への連日の空爆侵略行為、こうしたなかでの今年の夏祭りでした。そして何といても31年ぶりの歌手、加藤登紀子さんの里帰りコンサートの実現でした。15日夕、加藤さんが三角公園のステージへ上がるや、空からバケツを返したごとの雨、空と釜の労働者からの熱烈な歓迎ぶりでした。そして加藤さんも参加して釜で命をささげた仲間の慰霊祭が本年もしめやかにとりおこなわれました。より良き社会の実現を希求しながら望み半ばで世を去った仲間全員で黙とうしました。こうして釜の労働者は今年も故郷をなつかしみつつ、自らと、仲間を守る闘いにたちあがる気持ちをかもしだしていくのでした。

釜講座は今夏祭り期間中、8月14日に「特掃ツアー」、15日には恒例の「夏祭り釜めぐりツアー」をおこないました。「特掃ツアー」は5名にて大阪市旭区の施設の草刈り作業に参加、今回も釜ヶ崎支援機構に御世話になりながら勉強しました。そして釜に戻って感想を話し合いました。翌15日、昼過ぎから水野阿修羅さんの案内で「釜ツアー」を行いました。今年も40名をこえる参加をいただきました。有難うございました。水野さんも毎年、酷暑のなか、本当に御苦労さまです。今夏もやはり、「西成特区構想」の動きのなか、「総合センター建て替え」問題、「小中一貫校」問題などの話題の中でのツアーでした。猛暑をさけ、文字どおり、「寄り場」に集うセンターを歩くと、労働者が「求人広告は張ってあるが、生活にはどうてい、ならんわ」と声を私達に向けながら、説明してくれました。今回も水野さんの先導で有意義なツアーができ、感想の場をもちながら終了しました。今回、街の現地地図を用意せず、参加の皆さんにご迷惑をかけました。今後共、向上して参りたいと思っております。

4・ 2014年 秋季反戦・反原発の闘いに参加

皆さん、釜ヶ崎講座は今秋も釜日労・反失連の仲間と共に反戦・反原発の行動に講座旗をかかげて参加しました。10月19日には京都市丸山野外音楽堂にて「反戦・反貧困・反差別10・19京都共同行動」があり、講座のメンバーも釜日労の勝利号バスに同乗させてもらい、終日行動しました。当日は鹿児島・薩摩川内(さつま せんだい)市より川内原発反対の継続的取り組みの報告がなされ、金と利権まみれの「原発ムラ」社会の実態がこの日も明らかとなりました。600名の参加者は京都中心街へデモし、外国人観光客などから支持の声援をうけました。釜日労は原発における被曝労働の強要と重層的下請け構造の不当性を市民にデモ中、アピールしました。続く11月9日には大阪

城野外音楽堂にて、「とめよう戦争への道 めざそうアジアの平和 2014関西のつどい」集会が開催され、これにも参加しました。11月16日沖縄知事選挙戦(翁長候補の大差の勝利!)直前と名護市・辺野古での新基地ボーリング強行という緊迫状況下、現地、ヘリ基地反対協の安次富浩さんが駆け付け、沖縄への基地を中心とする数々の苦難・痛みの強要、押し付けを怒りをもって糾弾しました。本土国民も近隣の軍事基地拡張を許さず、沖縄と連帯していく発言がつづきました。安心して働き、生活できる社会をめざして、参加者は心を1つにした集会でした。講座はこうした諸集会に継続参加しております。体験されたい方は事務局までご連絡ください。

5・「12・6釜ヶ崎講座第8回学習会」開催

「釜ヶ崎の今に思うこと」と題して

NPO釜ヶ崎支援機構事務局長 松本裕文さんに

12月6日、釜ヶ崎内、渡邊往診歯科3Fにて、「釜ヶ崎講座第8回学習会」を11名の参加で開きました。通常であれば11～12月、「講演のつどい」の時期ですが、この2年来、「西成特区化構想」をうけてのさまざまな状況の推移で私達講座の関心事である釜ヶ崎労働者の労働と暮らしの問題—これからどの方向へ向かおうとするのか—このことを知るためには、「今の釜」をしっかりと捉える必要ありではないかという議論の中、気軽な雰囲気の中、勉強させてもらう、こういうことで松本さんをお願いしたら快く引き受けていただきました。(少し長い言いまわしになりましたが)そして講座事務局の要望どうり、大いに語っていただきました。松本さんはまず、今年の労働者の越冬対策の話からきりだし、「南港臨時宿泊」から釜現地でやることの大変さを述べ、しかしもっと主体的に受け止めることの大切さ、警備からささいな世話まで釜の労働者に仕事として対処(支援機構が面接・採用)してもらうことを語りました。大阪におけるホームレス者数の概況の話のなかでは、役所の見方からすると、「数字の減少で対策は打ち切り」と断定されがちだが日本社会の実状は「働いて賃金はもらえるがけっして生きていける賃金ではない」のであらゆる可能性をさぐりながら、ニーズにみあった対策を一貫して立てる必要があることを強調しました。。釜の街の中でも特区構想がらみの施策が動いてきたが、アートや物づくり、農業実践での人の養成と提携も始まっており、個人の特色にも配慮したやりかたを自立就労支援のポイントとして思っていることも語られました。そのほか、「特掃」「ひと花プロジェクト」「困窮者支援法」の話題も出る中、いずれにしても特区構想施策の推移がどう動こうとも、労働者個々の就労意欲の向上、孤独状態の防止、そして何よりも働く誇りと

活力をひきだす街のうねりを創りだしたいと語り、それぞれ参加者も意見をのべ、学習会を終了しました。松本さん、急きょ、ご参加のみなさん、当日は御苦労さまでした。講座はこれからも学習会を適時開催します。

近況活動の報告は以上です。

釜ヶ崎講座からのお願い

日頃は釜ヶ崎講座に幅広いご支援、ご協力に感謝申し上げます。釜ヶ崎講座は会員・読者の皆さまのカンパによるどころ大にて活動いたしております。ニュースに同封されております振り込み用紙にてよろしくお願い申し上げます。

釜ヶ崎講座事務局